

## 【新型コロナ】「それぞれが適切な対策を」 5月8日から5類に 今後は？ 鹿児島大学の専門家に聞く

4 / 24 鹿児島ニュース



<https://news.yahoo.co.jp/articles/5990d67e6846439bb2dd1b5abe5129178f12f96b>

5月8日、新型コロナウイルスの感染症法上の位置付けが、季節性インフルエンザと同等の5類に引き下げられます。

そこで、KTSライブニュースでは、5回にわたり、様々な切り口で新型コロナを取り巻く、これまでとこれからを見ていきます。

1回目は、感染症の専門家にコロナ禍の3年間を振り返ってもらい、今後私たちがどうコロナに向き合うべきか見解を聞きました。

「ウイルスは感染力を強めて、病原性を低下する方向に進化する。そういう点では、だんだん自然の流れに従ってウイルス側も変わってきたと思います」

こう話すのは、感染症学が専門の、鹿児島大学大学院・西順一郎教授です。

感染症の専門家として、この3年あまり、新型コロナウイルスとの向き合い方を様々な場面で話してくれました。

新型コロナの位置づけが大きな転換を迎えるのを前に、西教授が今回のインタビューで口にしたのは、コロナ対策への懸念です。

### 鹿児島大学大学院・西順一郎教授

「コロナ禍と言うが、コロナ対策によって非常に辛い思いをしてきた人も多かったと思う。当初はウイルスの病原性がはっきり分からないので、厳しい対策をとるのは致し方ないが、オミクロン株になってかなり病状が変わってきた段階で、それでもこういう対策を3年間にわたって続けたいといけなかったのか、私は少し疑問に思っている」

マスク着用やアルコール消毒、そして県をまたぐ移動制限。様々な「コロナ対策」に私たちの生活も数年にわたって振り回されてきました。

5月から感染症法上の位置付けは季節性インフルエンザと同等の5類に引き下げられ、これまでのように多くの人の行動を制限するような対策はなくなりますが、私たちの生活が

ら新型コロナがすぐに消えてなくなるわけではありません。

#### 鹿児島大学大学院・西順一郎教授

「コロナはまだ季節性が出ていなくて、人の動きと共に流行する。本来、コロナは風邪のウイルスなので冬に流行するもの。次第に数年かけて（流行は）冬だけになってくるかと思うが、それまでには時間がかかりそう。9波、10波が来るのは間違いない、全国的に。これからは全数把握がなくなるから正式な数が分からなくなるから、規模として比較するのは難しいが、一定の流行は今後、鹿児島でもある」

今後來るであろう、新型コロナの9波や10波。あるいは、未知のウイルスによる新たなパンデミックが起きる可能性も。それらに備えるためにも、今後も私たちには適切な感染対策が求められます。

#### 鹿児島大学大学院・西順一郎教授

「マスクも症状が出てきて、おかしいと思ったら着けるということは必ず守ってもらいたい。ワクチンもあるので、インフル、コロナもワクチンがあるのでそれを利用してもらえば。コロナに限らず、感染症全体への関心を高め、過度な対策は要らないが、適切な対策をそれぞれが考えることが必要」

例えば、感染症の一つ、インフルエンザも、子供たちにとっては致死率で見ればコロナ以上に亡くなるリスクがある病気です。

コロナだけでなく、感染症全体に関するリスクを理解して、これからも感染症対策は各自で続ける必要があります。

鹿児島テレビ